

正倉院文書と仏教儀礼

内田, 敦士
九州大学大学院人文科学研究院

<https://hdl.handle.net/2324/7329819>

出版情報 : pp. 1-6, 2024-11-02
バージョン :
権利関係 :



正倉院文書と仏教儀礼

内田敦士

はじめに

- ・ 正倉院文書を活用して、仏教儀礼の研究を進める
- ・ 1 諸国正月齋会、2 灌仏会、3 盂蘭盆会を検討

1、諸国正月齋会

- 【史料1】（【榎英一 2015】の分析に従う）
 - ・ 大豆餅 32 枚…16 で割ると、一人当たり 2 枚
餅交料大豆 3 升 2 合…16 で割ると、一人当たり 2 合
 - ・ 小豆餅 32 枚…16 で割ると、一人当たり 2 枚
餅交料小豆 6 升 4 合…16 で割ると、一人当たり 4 合
- 【史料2】
 - ・ 米 7 合（甜物料 5 合、菜料 2 合）…米は餅の材料としない
 - ・ 糯米 1 升…餅の材料か
 - ・ 大豆 2 合 5 勺のうち餅料 1 合 5 勺（僧一人当たり）
 - ・ 小豆 4 合のうち餅料 2 合（僧一人当たり）

◎諸国正月齋会の大豆餅・小豆餅で使用される大豆・小豆の一人当たりの量は、御齋会のそれよりも多い。

◎諸国正月齋会の大豆餅・小豆餅の原料は米。御齋会の大豆餅・小豆餅の原料は糯米。

2、灌仏会

（1）経典の分析

- ①『般泥洹後灌臘經』…『大正新脩大藏經』No.391。竺法護訳。舍衛国の祇樹給孤独園で、阿難に対して仏滅後の 4 月 8 日と 7 月 15 日に行う灌仏の方法や功德を説く
- ②『仏説灌洗仏形像經』…『大正新脩大藏經』No.695。西晋の法炬訳。摩訶刹頭らに対して、四月八日の仏誕の様子や灌仏の方法・功德を説く
- ③『仏説摩訶刹頭經』…『大正新脩大藏經』No.696。姚秦の聖堅訳。内容は②『灌洗仏形像經』とほぼ共通
- ④『仏説浴像功德經』…『大正新脩大藏經』No.697。唐の宝思惟訳。前三經に比べると新しい経典。王舎城の鷲峰山において、仏が清浄慧菩薩らに対して、灌仏の方法や功德を説く
- ⑤『浴仏功德經』…『大正新脩大藏經』No.698。唐の義浄訳。内容は、④『仏説浴像功德經』とほぼ共通

（２）正倉院文書の分析

正倉院文書の中で、灌仏会関係經典がみえる史料を収集【表１】

○【史料３～６】

日付上灌仏会の直前の時期に、灌仏会関係經典が貸し出されたことを示す。請求目的が明記されていないため、確実に灌仏会に関係すると断言することはできない

○【史料７】東大寺が写経司に対して、４月８日に浴像經を説くために請求したことがわかる。灌仏会で浴像經が講説されたことを示す史料

○【史料８】

【山本幸男 2004】『灌洗仏形像經』は、灌仏会を機に配備の必要性が認識され、書写用に請求されたか

【内田敦士 2012】書写用と断定することはできないことと、『灌洗仏形像經』だけではなく、『浴像功德經』も仏像を洗浴する方法と功德を説いたものであるため、両經ともに灌仏会に関係して請求されたと考えるべきであることを指摘

※同時に請求された「南海伝五卷」は、義浄『南海寄帰内法伝』。旧稿執筆段階では、なぜ『南海寄帰内法伝』が同時に請求されているのかわからなかった

→『南海寄帰内法伝』には、インドの灌仏の様子や中国で行われている灌仏への批判などが書かれていることが判明。義浄訳『浴仏功德經』と『南海寄帰内法伝』を比べて読むと、灌仏に用いる水は虫を殺さないように濾して使用すること、磨香や吉祥水に関する説明、灌仏後に仏像を布で拭くことなど、共通の内容が多くみられ、『南海寄帰内法伝』にみえる義浄の主張が、『浴仏功德經』にも盛り込まれている

◎道鏡は、宝思惟訳『浴像功德經』や『灌洗仏形像經』と合わせて『南海寄帰内法伝』を参照・比較することで、灌仏会について研究しようとした可能性が高い

3、盂蘭盆会

（１）經典の分析

①『仏説盂蘭盆經』。西晋・竺法護訳。『大正新脩大藏經』No.685。仏が舍衛国の祇樹給孤独園にいた際、目連は亡くなった母が餓鬼となっているのを神通力によって見つける。鉢に飯を盛って母に送るが、母が食べようとすると、飯は火炭となってしまう。目連は泣き叫んで仏に助けを求める。仏は、7月15日に僧侶たちに供養を行うことによって、母は救われると教えた。そして、実際に目連の母は餓鬼の苦を逃れることができた。現在、日本で盂蘭盆經といえば、これを指すのが一般的【柴崎照和 2006】

②『仏説報恩奉盆經』。『大正新脩大藏經』No.686。①『仏説盂蘭盆經』のほぼ前半部分に相当。盂蘭盆会関係經典の中で最も短い經典

③『仏説浄土盂蘭盆經』は、敦煌文書の伯2185。盂蘭盆会関係經典の中で最も長い經典。

①『仏説盂蘭盆經』をもとに七世紀前半に偽作されたか【岡部和雄 1966】

④『随願往生經』は、『灌頂經』（『大正新脩大藏經』No.1331）の第11巻『仏説灌頂随願往生十方浄土經』。『随願往生經』の那舍長者の物語と③『仏説浄土盂蘭盆經』の目

連と母の過去世因縁譚が類似することや、浄土の要素が共通する【岡部和雄 1970】

（２）正倉院文書の分析

正倉院文書に孟蘭盆会関係經典がみえる史料を収集【表 2】

○【史料 9～13】

7 月 15 日の直前の時期に關係經典が貸し出されており、孟蘭盆会に關係する可能性が高いが、確証はない

○【史料 14】

天平勝宝二年五月十五日に、報恩奉盆經一卷を貸し出したものである。「七月十五日講」のためと目的が明記されている。孟蘭盆会で行われる經典の講説とみてよい

○【史料 15】

東大寺から写一切經司に対して出された文書であり、孟蘭盆講師の所に充てる目的で、孟蘭盆会關係四經典を請求

○【史料 16】

『報恩奉呪（盆の誤りか）經』と『随願往生經』のみが、孟蘭盆經講師の所に、貸し出された

◎孟蘭盆会では、孟蘭盆經講師によって孟蘭盆經の講説が行われることがあった

○孟蘭盆会關係四經の登場数に注目すると、『仏説浄土孟蘭盆經』が 6 回と非常に少ない（表 2 参照）。奈良時代の日本には『仏説浄土孟蘭盆經』の導入が限定的

【内田敦士 2023】

・日本の孟蘭盆会…『仏説孟蘭盆經』『仏説報恩奉盆經』（Aタイプとする）との関係が深い

・中国の孟蘭盆会…『仏説浄土孟蘭盆經』『随願往生經』（Bタイプとする）との関係が深い

【表 2】Aタイプが合計 51 件、Bタイプが合計 17 件。AタイプはBタイプの 3 倍

◎ただし、Bタイプを意図的に排除するのではなく、【史料 13・15】のように、A B 問わず多数の關係經典を一度に請求するケースもあり。請求者にはそれらが關係する經典であるという知識があり、比較して分析したいという欲求があった

→大宝積經の勘經【宮崎健司 1994】や景雲一切經の章疏の勘經【内田敦士 2020】などと同じく、經典研究に値する

おわりに

○諸国正月齋会の大豆餅・小豆餅で使用する大豆・小豆の一人当たりの量は、御齋会のそれよりも多い。諸国正月齋会の大豆餅・小豆餅の原料は米だが、御齋会の大豆餅・小豆餅の原料は糯米であることがわかった。

○灌仏会や孟蘭盆会の実施にあたって、關係經典を請求・貸出する事例が多数確認できた。両儀礼で講説が行われることがあった。關係經典を収集し比較する姿勢をみせる僧侶が

いたことも興味深い。状況から考えて、経典研究・儀礼研究として評価できる

○日本の仏教儀礼を論じる際、中国で実際に行われていた儀礼の影響が指摘されることが多い。ex.【黒須利夫 2005】日本の七寺盂蘭盆会に関して、中国で行われていた代宗の盂蘭盆会が影響を与えたとする

◎【内田敦士 2023】日本は中国社会で実際に行われていた盂蘭盆会というよりも、『仏説盂蘭盆経』に描かれた盂蘭盆会を受容したようにみえることを指摘

→その背景には、本報告で明らかにしたような経典の研究があるか。経典の研究の成果として、経典内容に沿った儀礼が行われる。その意味では、経典を通じて儀礼を受容している

○道鏡の登場頻度の高さ。彼は灌仏会や盂蘭盆会に興味を持っていたらしい

【史料 13】日本ではあまり一般的ではなく正倉院文書にもほとんど現れない『仏説浄土盂蘭盆経』に注目

【史料 8】中国の灌仏のありかたを批判する『南海寄帰内法伝』と灌仏会関係経典をセットで請求し、インドの灌仏にも関心を寄せていた

※道鏡とインド…『続日本紀』宝亀 3 年（772）4 月丁巳（6 日）条（道鏡伝）

「略抄ニ梵文（サンスクリット）ニ」

○参考文献

- ・岡部和雄「浄土盂蘭盆経の成立とその背景—偽経経典成立に関する一試論—」（『鈴木学術財団研究年報』2、1966 年）
- ・岡部和雄「敦煌本「盂蘭盆経讃述」の性格」（『印度学仏教学研究』18-2、1970 年）
- ・宮崎健司「天平勝宝七歳における『大宝積経』の勘経」（『日本古代の写経と社会』塙書房、2006 年。初出 1994 年）
- ・山本幸男「孝謙太上天皇と道鏡—正倉院文書からみた政柄分担宣言期の仏事行為—」（『奈良朝仏教史攷』法蔵館、2015 年。初出 2004 年）。
- ・黒須利夫「七寺・七廟考—七寺盂蘭盆会の成立—」（あたらしい古代史の会編『王権と信仰の古代史』吉川弘文館、2005 年）。
- ・柴崎照和『お盆と盂蘭盆経』（大東出版社、2006 年）。
- ・内田敦士「景雲一切経の写経・勘経事業と称徳・道鏡政権」（『続日本紀研究』399、2012 年）
- ・榎英一「天平年間正税帳の斎会記事」（『愛知文教大学論叢』18、2015 年）
- ・内田敦士「称徳朝における章疏の勘経」（『仏教史学研究』63-1、2020 年）
- ・内田敦士「宮都における盂蘭盆会の日中比較」（堀裕・三上喜孝・吉田歆編『東アジアの王宮・王都と仏教』勉誠社、2023 年）

史料編

【史料 1】「天平十一年（七三九）度 伊豆国正税帳」（正集十九 1、『大日本古文書』二一）
一九二（一九三）

（前略）

毎年正月十四日読金光明経四卷又金光明最勝王経

十卷合壹拾肆卷供養料稻肆拾玖束

仏・聖僧及読僧十四口合壹拾陸軀供養料稻漆束

伍把貳分

大豆餅卅二枚 小豆餅卅二枚 煎餅卅二枚 阿久良

形卅二了 布留卅二枚并壹伯陸拾枚料稻陸

束肆把

麦形卅二了料麦六升四合 餅交料小豆六升四合

并壹斗貳升捌合価稻貳束伍把陸分

餅交料大豆三升二合 煎料大豆三升二合 并陸升

肆合価稻壹束貳把捌分

塩壹升玖合貳夕価稻陸把肆分

胡麻油玖合陸夕<sup>煎餅・阿久良形
麦形等料</sup>価稻捌束陸把肆

分

飴捌合<sup>布留
料</sup>価稻参束貳把

醬肆升壹合貳夕捌撮価稻壹拾貳束参把分

末醬貳升肆夕捌撮 価稻肆束壹把

酢壹升壹合伍夕貳撮価稻貳束参把

（後略）

【史料2】『延喜式』大膳式下3御齋会条

正月最勝王經齋会供養料〈臨時齋会供養料准此。但干柏・薪・炭・箸竹・松明・油等、隨僧員申〉、僧別日菓菜料、米七合〈甜物料五合、菜料二合〉、糯米一升、糯糰二合、糖一合〈甜物料七勺、菜料三勺〉、索餅一藁、小麦六合〈甜物并薄餅・菜料、各二合〉、大豆二合五勺〈餅料一合五勺、菜料一合〉、小豆四合〈餅・菜料、各二合〉、大角豆、白大豆各一合、胡麻子三合、胡麻油二合五勺、麻子三勺、醬三合、滓醬・餽醬・未醬・豉各一合、餽未醬二合、酢一合五勺、塩三合、細昆布〈以一卷充廿口〉、索昆布二条、昆布〈以一帖充廿口〉、紫菜三分、海藻二両、於期菜・鹿角菜・角俣菜各二両、稚海藻三両、海松一両二分、海藻根一両、滑海藻二両二分、大凝菜三分、青海菜〈以一帖充十口〉、古毛一合、干薑四撮、芥子三勺、壺酒一合、醬漬瓜・糟漬瓜・荳裏各一顆、未醬漬・糟漬冬瓜〈以各一顆充三口〉、未醬漬・糟漬・醬漬茄子各三顆、漬薑七勺、藁荷漬・菴根漬各二合、青須須保利漬一合、青筴二合、蔓菁一升、蘿菔・高菰各一把、荊根一節、根蓴二把、薑薑二合、胡荽一合五勺、胡桃子六顆、生栗子六合〈菓子料四合、菜料二合〉、干柿一合、梨子二顆、甘子一顆、橘子六顆、暑預・【くさかんむり十宅】各二合、芋六合〈菓子并菜料各三合〉、荷藕半節、干柏十八俵〈職十四俵、菓子所四俵〉、箸竹八十株〈職五十六株、菓子所廿四株〉、燈油七升〈職并菓子所各三升五合〉、薪四千二百斤〈職二千五百廿斤、菓子所一千六百八十斤〉、炭廿四斛五斗〈職十四石、菓子所十石五斗〉、松明三百六十斤〈職并菓子所、各一百八十斤〉。

右、每年起正月八日尽十四日、并一七日、仏聖二座・四王四座・講読師一口・衆僧卅口・沙弥卅四口料、依前件。其仏聖・四王、各以二僧料供之。沙弥減僧半。

【史料3】「納櫃本經檢定并出入帳」天平十五年三月二十二日条（続々修十五帙三9、二四ノ一七八、表1―2）

四月一日且納赤万呂

廿三日出奉仏藏經四卷 浴像功德經一卷

並上坐大德重出奉
受平撰師

又灌仏經一卷

依同重

九月十日納赤万呂

小野朝臣 田辺真人

辛国人成

【史料4】「納櫃本經檢定并出入帳」天平十六年三月十八日条（続々修十五帙三10、一二四ノ一八〇、表1—3）

三月十八日出浴像功德經一卷^{講經機所}
四月六日返納了 知 辛国人成
納了赤万呂

【史料5】「納櫃本經檢定并出入帳」（続々修十五帙三3、一二四ノ一七四、表1—6）
（前略）

浴像功德經一卷
右、依^二良弁大德宣^一、奉請（天平）廿年三月廿四日
（後略）

【史料6】「写書所經疏奉請帳」（続々修十六帙五7、十二ノ三九〇、表1—22）
（前略）

浴像功德經一卷
右、依^二少僧都天平勝宝五年四月五日宣^一、令^二奉請^一如^レ前^付傳^儀勝
以^二二十一日^一奉返了 收生人 知上馬養
（後略）

【史料7】天平勝宝四年四月七日「東大寺牒」（続々修十六帙七15、十二ノ二六六、表1—21）

寺牒 写經司
奉請浴像經老卷
右、為^レ奉^レ說^二明日件經^一、奉請如^レ前。
今以^レ狀、故牒。 受使僧仙光
天平勝宝四年四月七日
寺主 大都那法正
知 ^三傳^義勝
原 生 入

【史料8】天平宝字七年四月十二日「奉写御執經所請經文」(統修別集四 11、五ノ四三三
ノ四三四、表 1—27)

奉写 御執經所

「充」

浴像功德經一卷宝思惟訳

「充」

灌洗仏形像經一卷亦云四月八日灌經

「充」

南海伝五卷

右、被_二弓削禪師今月十二日宣_一傳、件經并

伝、奉_二請於東大寺_一者、仍差_二内豎八清水

連城守_一充_レ使、奉請如_レ前。

天平宝字七年四月十二日乾政官史生因幡国造田作

「行

判官葛井連根道

主典阿刀連酒主

令_二奉請_一二卷_一一巻浴像功德經
一巻灌洗仏形像經並黄紙及表綺緒紫檀軸

並宮一切經之内第五櫃付_二内豎八清水連城守_一

以_二五月一日_一令_レ請_二南海伝一部四卷_一黄紙及表綺緒赤木軸 坤宮一切經之

【史料9】「律論疏集伝等本收納并返送帳」天平十六年七月十二日・十六日条(正集三三裏
2、八ノ一九〇ノ一九一、表 2—10・11)

七月

反来

十二日納孟蘭盆經四卷_一一巻宮一切經内黄麻律及表紫檀龜玳緒
一巻山鹿寺藏律及表紫檀大僧軸

一卷黄紙黄表漆軸綺辛国堂 納黒口櫃一合象牙足

着金塗釘

右進借_レ甲加宮 茨田少進宣 使上丁宇万呂

判進膳令史

十六日返送孟蘭盆經四卷_一不來口納黒口櫃一合
右依先奉請收納如件 使宇万呂 受人成

【史料10】「納櫃本經檢定并出入帳」天平十六年七月十二日条（続々修十五帙三10、一二四ノ一八〇、表2―9）

七月十二日出孟蘭盆經一卷依表田公進實、奉請申可宮知幸国

納了

令史高屋連 葛野古万呂

人成

【史料11】「納櫃本經檢定并出入帳」天平十七年七月十一日条（続々修十五帙三2、一二四ノ一七三、表2―12）

十七年七月十一日出孟蘭盆經一卷

平摂師宣

右、依良弁末徳、便使付二教演沙弥一、令レ請奉如レ件。

【史料12】「經疏出納帳」（塵芥二八裏4、四ノ九五、表2―21）

（前略）

孟蘭盆經一卷聞写者報恩奉盆經一切經内者

右、以二（天平勝宝）五年七月四日一、奉二請澄恵師所一、即使。

返訖

知吳原生人

（後略）

【史料13】「奉写御執經所請經文」（續修別集四6、五ノ四五一―四五二、表2―24）

奉写 御執經所

島院

奉請浄土孟蘭盆經可請内室經内之奉盆經可請嶋院圖書寮經内、令請如件

右、弓削禪師宣云、上件經等、從二東

大寺一、奉二請内裏一者。今依二宣旨一、内堅

六人部嶋繼差レ使、令二奉請一如レ前。

天平宝字七年七月十一日承宣内堅日置浄足

判許

主典志斐連

【史料 14】「経本出納帳」天平勝宝二年五月十五日条（続々修十六帙六⁵、十ノ六三〇、表 2—16）

勝宝二年五月十五日出報恩奉鉢經一卷

右、為_レ二七月十五日講_一奉請。受_二僧標瓊_一。

奉返了 知他田水主

【史料 15】天平勝宝四年七月十日「東大寺牒」（続々修三帙十裏¹⁰、十二ノ三三二、表 2—19）

寺牒 写一切經司

「无」奉請孟蘭^盆經一卷 「請」報恩奉鉢經^{亦名報恩奉鉢經}

「无」浄土孟蘭盆經 「請」随願往生經

右、為_レ充_二孟蘭盆講師之所_一、附_二

僧慚善_一、奉請如_レ前。以牒。

天平勝宝四年七月十日少都維那聞崇

都維那法正

【史料 16】「写經所写經出納帳」（続々修十六帙五¹、十二ノ三一〇、表 2—20）

（前略）

報恩奉呪經一卷^{法雜}随願往生經一卷^{當一切雜內者 未分十二 並一經}

右、以_二天平勝宝四年七月十日_一、奉_二請孟蘭盆經講師所_一明_一師

（後略）

表1 正倉院文書にみえる灌仏会関係経典

No.	年月日	大日古	般泥洹後灌臘經	仏説灌洗仏形像經	仏説摩訶刹頭經	仏説浴像功德經 (宝思惟訳)	浴仏功德經 (義浄訳)
1	天平8年(736)11月24日	7/59			○	△	△
2	天平15年(743)3月23日	24/178				△	△
3	天平16年(744)3月18日	24/180				△	△
4	天平18年(746)7月16日	24/347				△	△
5	天平19年(747)8月24日	9/446			○	△	△
6	天平20年(748)3月24日	24/174				△	△
7	天平20年(748)11月30日	3/471				△	△
8	天平20年(748)11月30日	3/479				△	△
9	天平20年(748)11月30日	10/121				△	△
10	天平20年(748)11月30日	10/589				△	△
11	天平20年(748)11月30日	10/593				△	△
12	天平20年(748)11月30日	10/597				△	△
13	天平20年(748)11月30日	10/602				△	△
14	天平20年(748)11月30日	10/604				△	△
15	天平20年(748)11月30日	10/609				△	△
16	天平20年(748)11月30日	10/613				△	△
17	天平20年(748)11月30日	11/477				△	△
18	天平21年(749)2月9日	24/176				△	△
19	天平21年(749)3月20日	9/379				△	△
20	天平勝宝元年(749)8月19日	11/44				△	△
21	天平勝宝4年(752)4月7日	12/266				△	△
22	天平勝宝5年(753)4月5日	12/390				△	△
23	天平勝宝7歳(755)4月21日	25/187				△	△
24	天平勝宝7歳(755)4月21日	25/186		○			
25	天平勝宝7歳(755)4月21日	25/186			○		
26	天平宝字5年(761)3月22日	4/497					○
27	天平宝字7年(763)4月13日	5/433		○		○	
28	天平神護3年(767)2月8日	17/33	○				
29	天平神護3年(767)2月8日	17/29			○		
30	神護景雲4年(770)8月21日	17/218				△	△
31	宝亀2年(771)閏3月8日	18/233			○		
32	宝亀3年(772)3月28日	20/195		○			
33	宝亀3年(772)7月24日	20/145		○			
34	宝亀3年(772)9月19日	20/146				△	△
35	宝亀3年(772)9月19日	20/194			○		
36	宝亀3年(772)10月4日	20/135	○				
37	宝亀3年(772)10月19日	20/123	○				
38	宝亀6年(775)10月23日	23/546	○				
39	宝亀7年(776)5月28日	23/594		○			
40	欠	7/31			○		
41	欠	10/118			○		
42	欠	10/322			○		
43	欠	10/333			○		
44	欠	12/75		○	○		
45	欠	12/76				△	△
46	欠	12/92	○				
47	欠	12/113		○			
48	欠	12/114				△	△
49	欠	12/130	○				
50	欠	12/188	○		○	△	△
51	欠	12/189			○	△	△
52	欠	12/190	○				
53	欠	12/206				△	△
54	欠	12/211					○
55	年月欠17日	12/473		○			
56	欠	12/552					○
57	欠	13/180		○			
58	欠	17/68			○	△	△
59	欠	21/26		○	○	△	△
60	欠	21/43	○				
61	欠	21/89		○	○	△	△
62	欠	21/106	○				
63	欠	23/145					○
64	欠	23/159	○				
65	欠	23/165				△	△
合計			11	11	16	1(35)	4(38)

表2 正倉院文書にみえる孟蘭盆会関係經典

No.	年月日	大日古	仏説孟蘭盆經	仏説報恩奉盆經	仏説浄土孟蘭盆經	随願往生經
1	天平5年(733)2月30日	7/6				○
2	天平8年(736)11月24日	7/59	○	○		
3	天平11年(739)7月10日	7/85		○		
4	天平11年(739)7月10日	7/86				○
5	天平11年(739)9月7日	7/320				○
6	天平14年(742)7月24日	8/113		○		
7	天平14年(742)9月30日	8/92		○		
8	天平15年(743)7月23日	24/179		○		
9	天平16年(744)7月12日	24/180	○			
10	天平16年(744)7月12日	8/190	○			
11	天平16年(744)7月16日	8/191	○			
12	天平17年(745)7月11日	24/173	○			
13	天平18年(746)7月16日	24/347		○		
14	天平1口年	8/363	○			
15	天平20年(748)11月30日	11/478	○			
16	天平勝宝2年(750)5月15日	10/630		○		
17	天平勝宝3年(751)6月8日	12/5	○			
18	天平勝宝4年(752)4月2日	12/264	○			
19	天平勝宝4年(752)7月10日	12/332	○	○	○	○
20	天平勝宝4年(752)7月10日	12/310		○		○
21	天平勝宝5年(753)7月4日	4/95	○	○		
22	天平勝宝7歳(755)4月21日	25/187	○			
23	天平勝宝7歳(755)4月21日	25/192		○		
24	天平宝字7年(763)7月12日	5/451		○	○	
25	天平神護3年(767)2月22日	17/46				○
26	宝亀元年(770)10月30日	17/201	○			
27	宝亀元年(770)10月30日	17/202	○			
28	宝亀元年(770)11月3日	17/204	○			
29	宝亀2年(771)閏3月8日	18/233		○		
30	宝亀2年(771)5月14日	18/346	○			
31	宝亀2年(771)6月25日	18/552	○			
32	宝亀3年(772)9月19日	20/145	○			
33	宝亀3年(772)9月19日	20/146		○		
34	宝亀3年(772)10月4日	20/136		○		
35	欠	7/10			○	
36	欠	7/17		○		
37	欠	7/203				○
38	欠	10/332	○			
39	欠	11/14	○			
40	欠	12/76	○	○		
41	欠	12/114	○			
42	欠	12/145				○
43	欠	12/450			○	
44	欠	12/461		○		
45	年月欠17日	12/473		○		
46	欠	12/493			○	
47	欠	13/180		○		
48	年欠6月8日	16/555		○		
49	欠	17/67		○		
50	欠	17/68	○			
51	欠	21/26	○	○		
52	欠	21/89	○	○		
53	欠	23/159				○
54	欠	24/19			○	
55	欠	24/22		○		
56	欠	24/104				○
57	欠	24/388	○			
58	欠	24/536				○
合計			26	25	6	11